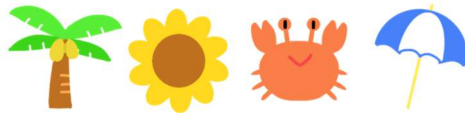


にこる通信

令和元年 8 月 10 日発行



強い日差しに向かって元気に咲いている向日葵のように、皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃より「よつば・にこる」をご利用下さり、まことにありがとうございます。夏休みに入ってから、本格的な暑さが到来しましたね。まさに夏本番です！にこるのお子さまたちも、宿題に遊びにと、元気いっぱい楽しく充実した日々を過ごしています。



熱中症のおそれもあるため、環境省の発表している「暑さ指数」において「嚴重警戒」や「危険」のときには、屋外での活動をできるかぎり控えるようにしております。今夏も昨夏同様、毎日のように「嚴重警戒」の日が続いておりますので、屋外で体を動かすことが難しいです。



そのような中、昨年は、にこる室内を走る「ぐるぐるタイム」を設けました。今年は、はじめの会の後に、活動プログラム「バランス」と同じようにサーキット形式で「トンネルくぐり」「トランポリン」「ピーナツ型バルーン」「ぐらぐら橋」「からだdeごろごろ」などの種目を行っています。そして、その日の活動プログラムが体を動かすものでない時には、午後に「ぐるぐるタイム」を設けています。

これらは、体を動かすことが目的の、単なる発散の時間というだけではありません。夏休みは、にこるでお子さまの様子を長い時間見ることができる貴重な機会です。ですから、いつも以上に、「つまずきの根本へのアプローチ」を充実させるためにも行っていることなのです。

保護者の方やお子さま本人の現在の困り感のほとんどは「環境」に関することが多いように見受けられます。「環境」は目に見えるので、問題点として挙げやすいからなのかもしれませんが、目に見えるもの、形あるものを変えることはとても難しいものです。何か変えられることがあるとすれば、それは、内面にある目に見えないものなのではないでしょうか。見えないものなので普段は意識しませんが、だからこそ疎かになっていることがあるように思います。よつば・にこるは、日常の中で見落としがちな内面＝目に見えないものを捉え、そこにアプローチをかけるための取り組みを行っています。そして、この取り組みの一環として「サーキット」を取り入れ、夏休みを、そして夏休み以降の生活を充実させていきたいと考えています。

サーキット種目紹介

※便宜上、用語や内容が学術的なものとは異なることもありますが、ご容赦願います。

「からだ de ごろごろ」

平衡感覚へのアプローチというだけではありません。たとえば、うまく回転できない場合、就寝時の「寝返り」が無意識下ではうまくいかず、実は寝返りのたびに起きてしまっていたりなど、睡眠が十分にとれていないことも考えられます。また、首の力だけで回転している子も少なくありません。

「トンネルくぐり」

トンネルをくぐるためには、四つん這い(ハイハイ)で進みます。ハイハイを上手にするためには、背骨を中心とした姿勢をつくる必要があります。ハイハイができているようでも、実際には足の力だけで体を運んでいて、本来のハイハイの形がとれていない子もいます。

「ピーナツ型バルーン」「トランポリン」

ピーナツ型バルーンやトランポリンでうまく跳ねるためには、腰骨が立っている必要があります。腰骨が立つことで、姿勢を保持できるようになります。また、姿勢を保持することが「見たいものを見る」ために大事です。また、跳ねることにより、前庭覚の刺激を得られるので、眼球運動の働きもアプローチでき、これも「見たいものを見る」ためには必須の条件です。

「ぐらぐら橋」

足場を不安定にすることで、片足立ちの必要性が増します。正しく二足歩行するときには、片足立ちの瞬間があります。ですから、片足立ちの体勢がとれない子は歩き方が覚束なく、無意識で自然に足を運ぶことができないため、「しっかり歩きなさい」などと言われると、歩くことに意識が向いてしまうため、本来集中すべきところに気が回らなかったり、疲れやすいということがあります。

これら5つの種目を通して、赤ちゃんの頃からの発達を追っています。(身体も心も)動きがスムーズなのは、脳などの中枢神経系に回路ができているからです。中枢神経系に回路を作るためには、適度な感覚刺激を受けることと、発達の過程をしっかりと経ることが必要であると言われています。

これまで特性だと言われていたことには、どんなものがあるのでしょうか？

落ち着きがない？ 忘れ物が多い？ 姿勢が悪い？ 空気が読めない？
文字の飛ばし読みをしてしまう？ 鏡文字になってしまう？ 計算ができない？
疲れやすい？ 温度調節が苦手？ 手先が不器用？ 衝動的に行動してしまう？
体を動かすことが苦手？ やる気がない？ 感情のコントロールが難しい？

……まだまだいっぱいありますよね。

それらは本当に特性であって、解消されることはないのでしょうか。

にこるでの時間の中で、実践を通して子どもたちの状態が変化した場面が多々あるので、全部が全部「特性であり、解消しない」というわけではないと思います。

感覚統合理論を土台とした「身体づくり」を実践していくことにより、解消できるものを解消し、「にこにこ」で「るんるん」に過ごせるお手伝いをしていけたらと思います。

放課後等デイサービス

よっぱ・にこる

〒422-8042

駿河区石田1丁目19-2
メゾン石田1F

HP <https://kurura.com/>

TEL 054-269-5128

FAX 054-269-5129

ホームページが
リニューアル
されたるら～
ぜひみるるら～

